

## 閉会の辞

山田 經三

(上智大学社会正義研究所長)

皆様、熱心な御参加ありがとうございました。多元的な民族社会の緊張、相互理解、協調というテーマで、午前から今まで、講師の皆様から本当に貴重なお話を通し、多くの事を学ばせていただきました。また御列席の皆様から積極的な御協力をいただき、第18回国際シンポジウムを成功のうちに終えることができ、御参加の皆様にご心からお礼を申し上げます。国内外の第一線で活躍する各分野の先生方の専門、叡智を結集して、実り豊かなシンポジウムを持つことができましたことは、私たち主催者側、国際基督教大学社会科学研究所と、上智大学社会正義研究所といたしましては大きな喜びであります。私たちには、この1日の貴重な講演と討議を通して、実に重い課題が与えられました。祈りの時にも少し触れましたが、私はキーワード「共生」ということで、この全体がめざす方向をまとめることができるのではないかと思います。共生とは、共存ではありません。共存は、対立がありながら、その時やむなく背中合わせでも存在することです。調和でもありません。調和では、対立がない、あるいは対立がある場合、強いものに巻かれてしまう、それは本当の共生ではない。妥協でもない。対立において、自分の考えを引いてしまう。

共生というのは、積極的なものでございます。Living and working together for global common good. 共生は、私たち日本人にとって、21世紀を迎えるにあたって、本当に大切な内容だと思いますが、この1日の全ての講師の先生のお話の中にそれが入っております。

共生を定義しますと民族、人種、国家、文化、宗教など相互の違いを積極的

に認め、受け入れ、学び、尊重し合い、お互いを必要としながら共に生きるということで、これを大事にしたいと思います。

もう時間もちょうど予定の6時になりましたし、皆さんもお疲れですから、この共生のために必要な四条件を述べて終わります。まず一つ目、ルー・スリヤニさんのお話、バリ島の文化、島民性という内容を伺いながら思いを同じくしたのであります。私はずっと、20年来度々沖縄にうかがわせていただいておりますが、その間、考えておりました。それは先生と同じ心であります。沖縄の方々の文化、これを我々が基地などでもって踏みにはじけてはいけません。その沖縄の「ヌチドウ宝、命こそ宝」、バリ島の御紹介とともに、私は沖縄のすばらしい内容を思い浮かべておりました。それが条件の一点目なんです。共生が本物であるためには、まず一つ目、沖縄語ではチムグルサンといいます。肝が苦しい、相手の方の痛みを自分の肝で受け止めて、一緒に解決のために尽くす、これが共苦です。日本語になりますと、石川啄木は優しさという言葉で表わしてくれたのです。憂いのすぐ横にいる人、聖書でいう愛がそれです。決して上から下に、「かわいそうに」という姿勢ではない。水平のまなざしで取り組むのが真の愛です。次に関わり。大切な関わり、豊かな関わりをする。自分本位ではない、相手本位の関わり。三つ目が、責任。実はこの関わりとか責任というのは、一体誰と、という時、もう少し厳密に考えますと、これも講師の皆様のお話の中にありました。他の人々と関わる、他の国と、他の宗教と、他の文化と、そして生きとし生けるものと関わる、自分自身と関わる、神様仏様と関わる。それが今度は、責任の場合にも同じく言えます。誰に答える能力なのか、responsibility. 今述べたすべてのものにこたえる能力のことで、四つ目はunderstand がどれほど大事かということで、相互理解、やはりこれも自分から出てその人の下に立つ時に初めて理解できるわけです。Stand under others, only then, we can understand others. “Upper stand” はしない。

今回のシンポジウムの締めくくりとして、くり返しますが、共苦、ともに苦しむ愛 (compassion)、そして豊かな関わりを持ち、責任をしっかり持ち、理解

を正しくする。これら四つが真の「共生」のための条件です。

ここで次回の御紹介をさせていただきます。次回のシンポジウムは、この共生という考えをさらに発展させ、こうした問題意識から、“Globalization—its light and darkness, positive aspect and negative aspect—”、つまり「グローバリゼーション、その光と影、共生を目指して」ということで、来年のこの頃上智大学で計画いたしております。

シンポジウムの最後にあたりまして、最後まで御参加下さった皆様の熱意、御協力に改めて感謝申し上げます。以上をもちまして、閉会の辞とさせていただきます。ありがとうございました。